記 者 発 表 資 料

がんばろう！東北

平成３０年　１月１０日
国土交通省東北地方整備局
秋　　田　　県

～国及び秋田県による雄物川緊急治水対策～

平成２９年７月　・　８月の記録的な豪雨で大きな被害を受けた雄物川中下流部において、**国、秋田県**が連携して**ハード・ソフトが一体となった緊急的な治水対策を実施**します。

○　秋田県の**雄物川では１か月間に２度の氾濫被害が発生**し、多くの家屋浸水被害が発生しました。

○　このため、被害の大きかった雄物川中下流部において、国、秋田県が連携して、

- **重点的な堤防整備（築堤、嵩上げ）、可能な限り迅速に家屋浸水被害リスクを軽減させる対策（輪中堤）、洪水時の水位を下げるための河道掘削などのハード対策を実施します。**
- **タイムラインの作成・改善とこれに基づく訓練、地域住民等も参加する危険箇所の共同点検など、関係機関と連携して住民の避難を促すためのソフト対策を実施**

※ 各対策の内容については、次ページ以降を参照願います。
※ なお、本発表は、以下の記者発表を取りまとめたものです。

- 平成 29 年 9 月 26 日（国土交通省東北地方整備局）
  http://www1a.thr.mlit.go.jp/bumon/kisya/kisyah/images/67493_1.pdf
- 平成 29 年 12 月 1 日（秋田県）
  http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/30265
- 平成 30 年 1 月 10 日（秋田県）
  http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/30892

＜発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会、秋田県政記者会＞

問合せ先	
〈国土交通省に関するもの〉 国土交通省東北地方整備局 雄物川激甚災害対策特別緊急事業推進室長 中川　博樹（内線3517） 河川部　河川計画課長 奥中　智行（内線3611） 仙台市青葉区本町３－３－１仙台合同庁舎B棟（12F）（TEL：022-225-2171）（代表）	〈秋田県に関するもの〉 秋田県 建設部　河川砂防課 担当者　今野、鳴海、佐藤（鉄） 秋田県山王四丁目1-1　県庁本庁舎（6F） （TEL：018-860-2511）（代表）

国及び秋田県による雄物川緊急治水対策

平成29年7月梅雨前線豪雨によって甚大な浸水被害が発生した雄物川中下流部において、国、秋田県が連携してハードとソフトが一体となった『雄物川緊急治水対策』を実施

【ハード対策】(事業費合計　約540億円)

■河川整備を緊急的、集中的に実施

【雄物川(直轄事業:国土交通省)】
- ○主な事業内容
  - ・堤防整備(築堤、嵩上げ、輪中堤)
  - ・河道掘削
- ○事業期間
  - ・平成29年度～平成34年度
- ○事業費合計
  - ・約235億円
- ○実施事業
  - ・河川激甚災害対策特別緊急事業
  - ・直轄河川改修事業

※直轄事業の詳細は、平成29年9月26日の国土交通省東北地方整備局記者発表参照

【淀川・福部内川・上溝川・楢岡川・土買川(補助事業:秋田県)】
- ○主な事業内容
  - ・築堤
  - ・河道掘削
- ○事業期間
  - ・平成29年度～平成33年度
- ○事業費合計
  - ・約305億円
- ○実施事業
  - ・河川災害復旧等関連緊急事業
  - ・河川等災害復旧助成事業
  - ・河川等災害関連事業
  - ・河川改修事業

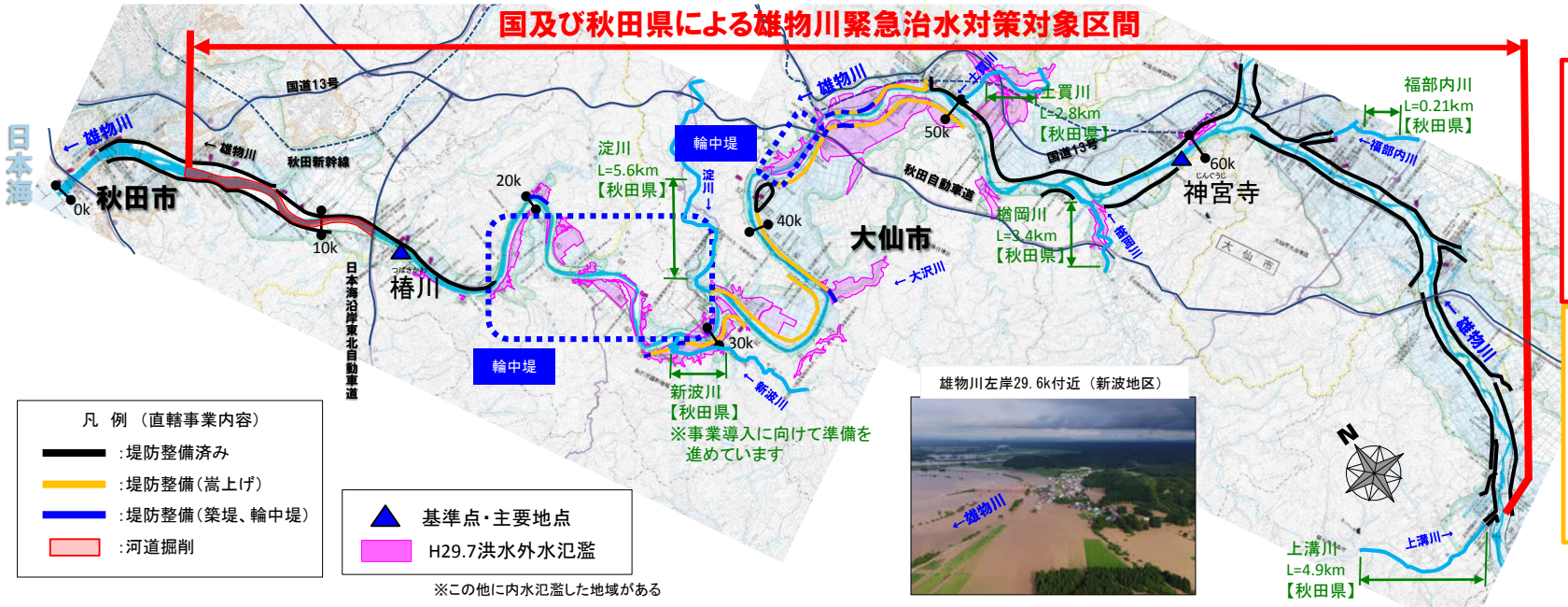
※補助事業の詳細は、平成29年12月1日、平成30年1月10日の秋田県記者発表参照

【ソフト対策】(円滑かつ迅速な避難に向けた支援)

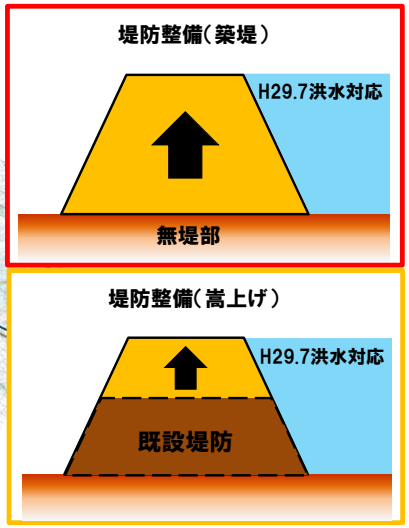
■住民の避難を促すためのソフト対策を沿川自治体と連携して実施

○主な実施内容
- ・「タイムライン」の作成・改善及びこれに基づく「防災訓練」の実施
- ・「洪水ハザードマップ」、「家屋倒壊危険区域」の公表、住民への周知
- ・水害リスクを共有するための「防災教育」の実施
- ・洪水情報の「プッシュ型配信」、「ホットライン」の実施
- ・「要配慮者施設」の避難に関する支援
- ・水防団、地域住民等が参加する危険箇所等の「共同点検」の実施　他

※今次洪水の「教訓」や避難情報が出された地域を対象とした「アンケート調査」等を踏まえた「減災に係る取組方針」の見直し



直轄事業:堤防整備イメージ図



国及び秋田県による雄物川緊急治水対策（ハード対策）

平成29年7月梅雨前線豪雨によって甚大な浸水被害が発生した雄物川中下流部において、河川激甚災害対策特別緊急事業等を活用し、築堤、堤防嵩上げ、河道掘削等を実施するとともに、淀川、福部内川、上溝川、楢岡川、土買川等で築堤、河道掘削等を実施するなど緊急的・集中的に治水対策を実施します。

【雄物川（直轄事業：国土交通省） 事業費合計 約235億円】

■河川激甚災害対策特別緊急事業

事業概要：洪水等による激甚な災害に対して、概ね5年間の緊急的な集中投資による河川改修により再度災害防止を図る事業。

事業内容：築堤、堤防嵩上げ、輪中堤、河道掘削 等
中流部における当面の整備目標を平成29年7月洪水規模とし、基準地点「椿川」における河道配分流量を当該事業に定められた6,100m3/s、計画堤防高をHWL－1mとして緊急的に整備を実施。

全体事業費：約218億円
※平成29年度災害対策等緊急事業推進費（5.8億円）を含む ： 堤防嵩上げ工事を施工中

実施期間：平成29年度～平成34年度

■直轄河川改修事業

事業内容：河道掘削

全体事業費：約17.2億円
※平成29年度災害対策等緊急事業推進費を導入： 河道掘削工事を施工中

※直轄事業の詳細は、平成29年9月26日の国土交通省東北地方整備局記者発表参照。

【淀川等（補助事業等：秋田県） 事業費合計 約305億円】

■河川災害復旧等関連緊急事業（淀川・上溝川）

事業概要：災害復旧事業による下流部での流量増加量への対応が必要な区域において、概ね4年間の緊急的な集中投資による河川改修により再度災害防止を図る事業。

事業内容：築堤、河道掘削、橋梁架替 等

全体事業費：約87億円（淀川67億円 上溝川20億円）
※平成29年度災害対策緊急事業推進費（10.3億円）、交付金事業（12.3億円）を含む

実施期間：平成29年度～平成32年度

■河川等災害復旧助成事業（上溝川・楢岡川）

事業概要：災害復旧事業による原形復旧のみでは、家屋の浸水被害が解消出来ないことから、河道の拡幅や堤防嵩上げ等を行うことで、流下能力を向上させ、家屋の浸水被害の防止を図る事業。

事業内容：築堤、河道掘削 等

全体事業費：約121億円（上溝川58.3億円 楢岡川62.5億円）

実施期間：平成29年度～平成33年度

■河川等災害関連事業（淀川・土買川）

事業概要：災害復旧事業による原形復旧のみでは、家屋の浸水被害が解消出来ないことから、河道の拡幅や築堤嵩上げ等を行うことで、流下能力を向上させ、再度災害の防止を図る事業。

事業内容：築堤、河道掘削 等

全体事業費：約97億円（淀川8.4億円 土買川88.3億円）

実施期間：平成29年度～平成31年度

■河川改修事業（福部内川）

事業内容：築堤

全体事業費：約0.26億円
※平成29年度災害対策緊急事業推進費を導入

※新波川ついても事業導入に向けて準備を進めているところです。
※補助事業の詳細は、平成29年12月1日、平成30年1月10日の秋田県記者発表参照。

国及び秋田県による雄物川緊急治水対策　ソフト対策の概要

➢ **雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会**がとりまとめた「**雄物川の減災に係る取組方針（平成28年8月）**」に基づき、「**住民の避難を促すソフト対策**」の推進を図るとともに、今次洪水の教訓等を踏まえ、関係機関と協議のうえ「**取組方針」の見直し**を図ります。

※今次洪水で避難情報が出された地域を対象とした「**アンケート調査**」を実施し、円滑かつ迅速な避難につながるよう「取組方針」を見直します。



（湯沢河川国道事務所ホームページ）

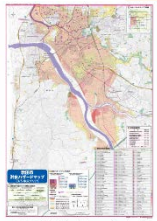
タイムラインを活用した防災訓練等の実施 ※次ページ参照

動かす

想定最大規模の洪水ハザードマップの作成・周知



湯沢市ハザードマップの作成
（H29.2.1公表・全戸配布）


秋田市ハザードマップの作成
（H29.3末公表・配布）

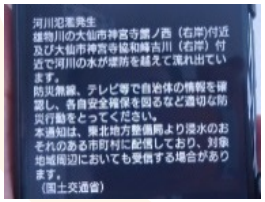
〇想定最大規模の洪水での避難計画を考慮したハザードマップを作成・公表します。

（図は秋田市や湯沢市で作成した実際のハザードマップ）

水害リスクを共有するための防災教育 ※次ページ参照

洪水情報のプッシュ型配信、ホットライン





今次洪水のホットラインに対する大仙市長のコメント

・平成29年7月洪水では、国交省の事務所長からホットラインの度重なる情報提供がなされ、それを踏まえて、適時の避難情報発令を行えた。

〇ホットラインにより、随時、洪水情報を自治体（市長等）へ提供します。

〇プッシュ型配信により、洪水情報を地域住民へ配信します。

（写真は、左：事務所長から大仙市長へのホットラインの状況、右：プッシュ型配信の画面）

要配慮者施設が策定する避難計画への支援 ※次ページ参照

「水防災意識社会　再構築ビジョン」に基づく
雄物川の減災に係る取組方針


昭和62年8月洪水　成瀬川左岸における水防活動

平成２９年５月１０日

雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会

秋田市、横手市、湯沢市、大仙市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村、秋田県、秋田地方気象台、国土交通省東北地方整備局

取組方針
（H28.8策定,H29.5改定）

戻す

防災情報を共有できる体制の整備



〇流域内の関係機関が防災情報を共有できる体制を整備します。

（図は秋田県の情報集約配信システム）

ねばる

地域住民が参加する共同点検の実施


重要水防箇所の情報共有のための合同巡視（秋田市）

〇重要水防箇所の合同点検や水防資機材の保有状況の確認を行います。

氾濫時の緊急排水計画（案）の作成



〇排水施設等の情報共有、浸水区域内の自然勾配を踏まえた排水の検討を行い、大規模水害を想定した氾濫時の緊急排水計画案を作成します。

（写真は大仙市浜町H29.7洪水）

地域特性を踏まえた家屋浸水対策の検討　等
（災害危険区域など土地利用と一体となった対策）

住民の避難を促すソフト対策（今年度の主な取り組み）

➢ 今次洪水の教訓等を踏まえた「住民の避難を促すソフト対策」に取り組んでいきます。

水害リスクを共有するための防災教育

大規模な氾濫があった場合に想定される浸水区域や取るべき行動など水害リスクを共有するために教育機関と連携した防災教育の実施。

○秋田県教育委員会「学校安全外部指導者派遣事業」に国土交通省から講師として参加するなど、教育機関と連携した防災教育を拡大実施





（写真は左:H29.12.19秋田市立勝平小学校、右:H29.9.1秋田市立土崎南小学校での防災学習の実施状況）

タイムラインを活用したロールプレイング演習

大規模洪水時におけるタイムラインを活用した危機管理対応の習熟と関係機関との連携を目的にロールプレイング演習を実施。

○今次洪水を踏まえ横手市と湯沢河川国道事務所で11月2日に実施





・開催日：11月2日
・参加者：雄物川流域の自治体、秋田県秋田地方気象台（総勢86名）

（写真は左：湯沢河川国道事務所、右：横手市の状況）

雄物川大洪水から70年・30年＋今次洪水　巡回パネル展
～雄物川の大水害を忘れないために～

雄物川では、過去にも昭和22年7月や昭和62年8月など大洪水が発生しており、今年は大洪水から70年・30年という節目の年。平時からの水害リスク情報を周知するため、今次洪水も含めた巡回パネル展を実施。

○雄物川流域の各地（21箇所）で7～11月に実施







（写真は左：H29.9.２５～10．６に大仙市市民活動交流拠点センター　Anbee（アンベー）右：ＪＲ大曲駅での実施状況）

防災マップの改訂と住民への周知

最新の浸水想定・土砂災害危険個所基礎調査を基に防災マップを全面改訂。住民説明会を実施し、意見を反映。あわせて今次洪水の教訓等を説明し、防災意識を高揚。

○今次洪水を踏まえ大仙市・横手市でマップを全面改訂

○横手市では改訂に伴う説明会を10～12月に実施

・開催日：10月31日～12月25日
・会　場：横手市各地域の公民館等30ヶ所以上
・参加者：自治会役員、消防団幹部、民政児童員、地区住民



（写真は横手市での実施状況）

要配慮者利用施設への支援等

○要配慮者利用施設等を対象に防災ラジオを貸与予定(秋田市)

○要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進(大仙市)

○想定最大規模の洪水ハザードマップを要配慮者利用施設等へ配布予定(横手市、美郷町、東成瀬村)

※ハザードマップは各自治体ごとに全世帯配布予定、秋田市、大仙市、湯沢市は公表・配布済み



（写真はH28.9から大仙市で避難行動支援者や要配慮者利用施設等へ無償貸与している防災ラジオ）